

図書館だより

昭和初年の図書館

松江郷土館学芸顧問

井川 朗

先入観というものは、なかなか訂正したいものである。小さい頃図書館で読んだ本に「エーソップ寓話集」というのがあって、以来この発音から抜け切れず、学校ではみんなに笑われたが、イソップのほうが間違いだらうと本気で信じこんでいた。昭和も10年頃の話である。

今も見られるが県庁の南側には榎の大木があって、新緑の頃もよいが灰色の梢が空にけぶる冬のたたずまいもよく、時に宿木が丸い玉を作っていたりもする。

二次大戦の頃までは、この樹の下あたりに小さな図書館があって、薄汚れた玄関の前にスベリ台のような不思議なかたちをした海石があり、よく小学生が滑りにきて小倉ズボンの尻を光らせたものである。

これが県立図書館の前身ともいえる当時の松江市立図書館で、そのまた前身は郷土の先覚者木幡氏らによって全国に魁て創始された私立図書館である。

興雲閣とほぼ同じ明治後期に建てられた木造瓦葺の館舎は、2階が書庫で階下には

教室に似た小部屋がいくつかあり、児童閲覧室などは机や椅子まで当時の小学校そのままで、詰襟の老人が司書であった。

この頃は大正時代に花開いた児童文学や児童文化の興隆期ではあったが、少年俱乐部などの子供雑誌はともかく、講談社の絵本35銭、童話の単行本50銭ではそうそう買ってもらはず、子供同志本の貸し借りが流行したから図書館は有難い存在である。しかし教科書よりも難しい本が多く、貸出しても子供にはあまりしなかったと思う。

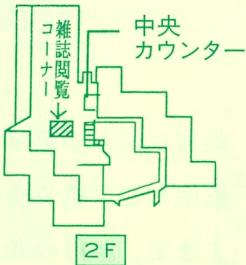
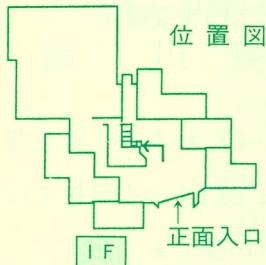
ただ、この時代は郷土教育が盛んで、松江地方の小学校などは、教師自らが手づくりの郷土読み本を作つて教材としたほど。その中で図書館に近い子供たちは、後藤藏四郎の「出雲神話」から、既に読み下し文が出ていた「淞北夜話」など、わけも解らぬながら読みちらしていたのは、門前の小僧か、孟母三遷の教えか。長く暗い戦争になる前の「雲の切れ目のような幸せな時代」であった。



図書館ってどんなとこ？

雑誌

閲覧コーナー紹介



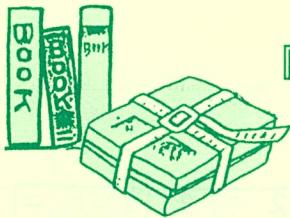
2階中央カウンター前に広がるのがブラウジングコーナーです。ここにはソファーが置いてあり、くつろぎの場となっています。このソファ一群をぐるっと囲むように223種類の雑誌を置いています。その中に、昨年4月から購入を始めた、「るるぶ



情報版」という雑誌があります。これは、多くのカラー写真を使ったカラフルな旅行ガイドです。この雑誌のみ最新号より貸出しをしており、多くの方に利用されています。

講演会のご案内

- 演題 「志賀直哉、里見弾と松江」
- 講師 松江工業高等専門学校教授 石原亨先生
- 講師紹介 S12年生。島根大学文理学部卒。大東高校、松江北高校等を経て、S62年より松江工業高等専門学校教授。近代文学会会員。里見弾への直接インタビューを重ね、H7年『証言 里見弾—志賀直哉を語る』を出版。
- 日時 2月13日（火）午後1時～3時
- 会場 島根県立図書館 集会室
- ★小泉八雲に魅かれ、松江を訪れた志賀と里見。二人の作家と松江とのかかわりをお話いただきます。（入場無料：どなたでも参加いただけます）



『忘れられない図書館との出会い』

松江市在住 大津邦子さん

「えっ、これが図書館。」

今を去ること十数年前、初めて入ったその図書館は、私の知っている図書館のイメージとはかけ離れていた。今でこそ珍しくないが、男女ともエプロン姿の職員。児童書コーナーの片隅では、カーペットの上で車座になった子どもたちが職員に本を読んでもらっている。2階には作家の五十音順に小説が並び、3階ではヘッドホンでレコードを聴いている若者がいる。貸出は5冊2週間まで、コンピューターでバーコードを読み取る。そのうえ雑誌やレコードまで貸してくれる。何もかもが目新しく、『こんなに明るくて気軽に立ち寄れる図書館もあるんだ。』と目の覚める思いがした。

そして、その日から4年間、その町を去るまで図書館は私の友だちだった。雨の日、休講の日、何もすることがない時、自然と足は図書館へ向かった。いつも自転車のカゴ一杯に本を積んで。2階の本棚の隅のイスに腰かけ、日がな一日読書にふけったこともある。3階の窓からぼんやり外を眺めていて、下宿の近所で火の手が上がるのを発見し、あわてて帰ったこともあった。休日には地下ホールで映画会があり、邦画の名作が無料で上映された。ホールではよく講演会も行なわれたが、夜の開催が多く、仕事を終えたサラリーマンの姿も多かった。お話し会の日は子どもで一杯になる。どんなに騒いでいても、滅多に注意などされない。子どもからお年寄りまで、そして私たち学生、みんなが集まって來た。貸出量日本一だったこともあると聞いた。学生時代を、住んでいた町を思い起こすとき、いつ

も必ず浮かんで来る、愛すべき図書館、忘れられない図書館だ。

思えば私が初めて出会った図書館は、たぶん小学校の学級文庫だろう。低学年のクラスにはそれぞれ本棚があり、そこで初めて好きな本を借りて読む楽しみを覚えたと思う。少し大きくなると学校図書館へ行くことを許され、読書の世界は広がった。そして進学するにつれ、公立、大学、さらには国会図書館など、いろいろな図書館に巡り合った。

昨年、はからずも母校に勤務することになり、これまた十数年ぶりになつかしい図書館へ行ってみた。正直言って高校時代、学校の図書館とは本を借りる所というより、自習の場であり、先を争って机を確保したことぐらいしか記憶になかったが、何気なく本棚を見ていると、なんとなく見覚えのある古い本が目に留まった。手に取ってみると、裏表紙にはさんであるカードに、紛れもなく自筆の貸出記録が残っていて、なんともなつかしいような照れ臭いような気分になった。その本は長い間、そこで高校生たちの移り変わりを見て来たにちがいない。でも、まさかとくの昔に卒業した生徒が、再び手にしてくれるとは思いもしなかっただろう。図書館って、なんておもしろい所なんだろう。今の私は仕事と育児に追われ、すっかり図書館から足が遠のいている。けれども、行きたい気持ちはいつも一杯だ。あのすばらしい図書館にはもう行くことはできないが、近くの図書館でいい。気楽にお付き合いを始めたい。図書館は私の大切な宝物なのだ。

★この作品は、昨秋、県立図書館が募集した「読書体験記」の入選作です。今回、図書館により掲載させていただきました。

行事予定

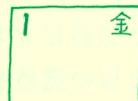
2月



1 木	2 金	3 土 古書を読む会 (近世) 14:00~16:00
4 日	5 月 休館日	6 火
7 水 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40	8 犬養葉を読む会 14:00~16:00	9 出雲国風土記を 読む会 13:00~15:00
11 休館日 建国記念日	12 休館日 振替休日	13 文化講演会 13:00~15:00
14 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40	15	16
18	19 休館日	20
21 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40	22	23
25	26 休館日	27
28 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40	29 休館日	

○館内展示……復刻された子どもの本

3月



1 金	2 土 古書を読む会 (近世) 14:00~16:00
3 日	4 月 休館日
5 火	6 水 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40
7 木	8 出雲国風土記を 読む会 13:00~15:00
10	11 休館日
12 成人読書会 13:00~15:00	13 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40
14 犬養葉を読む会 14:00~16:00	15
16 古書を読む会 (中世) 13:30~15:30	17
17	18 休館日
19	20 休館日 春分の日
21	22
24	25 休館日
31	26
27 親子で絵本を 読む会 15:00~15:40	28
29	30 休館日

○館内展示……受賞作品展

※各種講座は講師の方の都合により変更する場合もあります。

利用案内

●休館日

- 毎週月曜日・国民の祝日
- 毎月末日(月末が日曜日にあたるとときはその前日)
- 年末年始 12月28日~1月4日
- 図書整理休館(春・秋、それぞれ10日間)

●開館時間 9時~18時

子ども室は火曜日~土曜日は13時~18時
ただし、小・中学校の週5日制導入にともない、
第2土曜日・第4土曜日・春・夏・冬休み期間中は
午前9時から開きます。

●貸出し

冊数…5冊以内
期間…15日

編集発行 島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL 0852-22-5725

発行日 平成8年1月30日

FAX 0852-22-5728